

File Dynamics

ネットワークファイルシステムの管理タスクを自動化するとともに、ポリシーベースのデータ管理機能によって組織の最重要ファイルを不正アクセスやランサムウェア攻撃から保護します。File Dynamics の識別情報駆動型ポリシーでは、ユーザーとグループのストレージのプロビジョニング、日常の管理タスクの実行、ストレージコンテンツのクリーンアップと廃棄を実行します。ターゲット駆動型ポリシーでは、ファイルの移動、ストレージのクリーンアップ、価値の高いターゲットの保護と同時に、安全なニアラインバックアップによるデータ保護を実行します。

製品の概要

OpenText™ File Dynamics の広範なサービスにより、拡大し続けるネットワークデータ管理要件に対応できます。識別情報駆動型ポリシーでは、これまで手作業で行っていたタスクを自動化して、コストを削減し、セキュリティを確保し、タスクを適切かつ確実に実行します。ターゲット駆動型ポリシーでは、価値の高いターゲットのニアラインストレージバックアップを通じてデータの移行と再配置、クリーンアップ、セキュリティ確保、データ破損防止、ダウンタイム抑制を実行し、ファイルと関連パーミッションの迅速なリカバリを可能にします。

主なメリット

File Dynamics は、管理者のネットワークファイルシステム管理作業の負担を軽減しながらコンプライアンス目標の達成を支援するように設計されています。次のようなメリットがあります。

- ネットワークデータ管理コストの削減。File Dynamics では、さまざまな方法でコストが削減されます。
 - 第1に、通常は手作業のストレージ管理タスクが自動化されます。たとえば、ユーザーストレージとコラボレーションストレージのプロビジョニング、権限の設定、クォータ制限の設定、ストレージの移行、ストレージの再配布、ストレージのアーカイブ、ストレージのクリーンアップなどです。
 - 第2に、ストレージコンテンツが定期的にクリーンアップ、アーカイブ、削除されるため、プライマリストレージリソースを追加導入する必要性が減少します。
 - 第3に、追加ストレージリソースの必要性が減少することで、電力と冷却のコストを削減できます。
- セキュリティコンプライアンス要件への対応。識別情報駆動型ポリシーを使用すると、役割別にアクセスパーミッションを設定して、権限を持ったユーザーのみに特定のファイルへのアクセスを許可することが可能です。これにより、セキュリティ監査などにおいて、人事部員のみに機密従業員ファイルへのアクセスを許可していることを証明できます。
- 機密データの保護。一連のセキュリティベースのターゲット駆動型ポリシーを使用すると、価値の高いターゲットを不正アクセスから保護できます。通知ポリシーにより、アクセスパーミッションの更新時に通知が送信されます。フェンシングポリシーにより、特定のユーザーおよびグループへのアクセスが制限されます。ロックダウンポリシーにより、新規ユーザーへのアクセス権の付与が阻止されます。
- データ保護。File Dynamics のエポックデータ保護ポリシーを使用すると、ネットワーク上の価値の高いターゲットに配置された重要なファイルのニアラインアーカイブを維持できます。ネットワーク上のファ

概要

エンジンホスト

- Windows Server 2022
- Windows Server 2019
- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2

イベントモニターホスト

- Windows Server 2022
- Windows Server 2019
- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2

ファイルシステムエージェントホスト

- Windows Server 2022
- Windows Server 2019
- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2008 R2

Phoenix エージェントホスト

- Windows Server 2022
- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2008 R2

管理ワークステーションホスト

- .NET 4.6.2 を実行できる任意のプラットフォーム

イルがランサムウェア攻撃によって破損または暗号化された場合、指定されたデータ所有者は、最後に保存された「エポック」から保護された破損していないバージョンのファイルを迅速かつ簡単に回復し、破損したファイルを置き換えることができます。

- データの再配置。ワークロードポリシーを使用すると、セキュリティレポートなど外部で生成されたファイルを OpenText™ File Reporter からインポートし、最適化とコンプライアンスのためにこれらのファイルの場所を変更できます。

主な特長

- ユーザーストレージとコラボレーションストレージの管理。File Dynamics は、ユーザーストレージとコラボレーションストレージの両方を管理します。ユーザーストレージには、ユーザーホームフォルダーと任意の数の補助ストレージフォルダーが含まれます。コラボレーションストレージは、すべてのメンバーが単一フォルダーにアクセスできるコンテナまたはグループストレージフォルダーです。または、さらに整理され、グループ内の各ユーザーにコンテナまたはグループフォルダー内の個人用フォルダーが付与されるフォルダーです。
- ポリシーベースのアクション。ポリシーでは、Active Directory イベント、管理インターフェイスで選択された管理アクションオプション、スケジュールされたイベントなどの結果として実行するデータ管理アクションを指定します。たとえば、Active Directory の特定の組織単位に適用されるホームフォルダーポリシーでは、フォルダーのサイズ、場所、権限、属性、許可されないファイルタイプ、再配布パス、ボールディングパス、廃棄手順など、各ユーザーホームフォルダーのプロビジョニング方法を指定します。
- データセキュリティ。複数のセキュリティポリシータイプにより、価値の高いターゲットの保護に多数の自動アクションを使用できます。たとえば、アクセスパーミッションの変更をデータ所有者に通知したり、アクセスを許可するまたは許可しないユーザーとグループを指定したり、特定のユーザーセットへのアクセスをロックダウンしたりするなどです。
- データ保護。エポックデータ保護ポリシーは、File Dynamics のターゲット駆動型ポリシーです。これにより、ネットワークファイルシステムに保存されている価値の高いターゲットフォルダーのニアラインアクセス制限アーカイブを維持できます。排他的アクセスパーミッションは、過去の特定時点に存在していた高価値ターゲットのアーカイブを表示およびアクセスできるデータ所有者である管理者に限定されます。これは本質的に、高価値ターゲットのデータと関連パーミッションの「タイムマシン」です。必要に応じて、データ所有者はランサムウェア攻撃などによって破損したファイルを迅速に回復できます。
- データの移行と再配置。File Dynamics では、次のような理由でデータが自動的に移動します。
 - Active Directory の1つのコンテナから別のコンテナへのユーザーの移動
 - ポリシーの配布設定
 - ポリシー内のターゲットパスの変更
 - クロスエンパイアデータマイグレーションサブシステムを使用した、eDirectory 環境から Active Directory 環境へ、または Active Directory の1つのフォレストから別のフォレストへの移動
 - 特定のファイルの移動を許可するワークロードポリシー

お問い合わせ

www.opentext.com

